

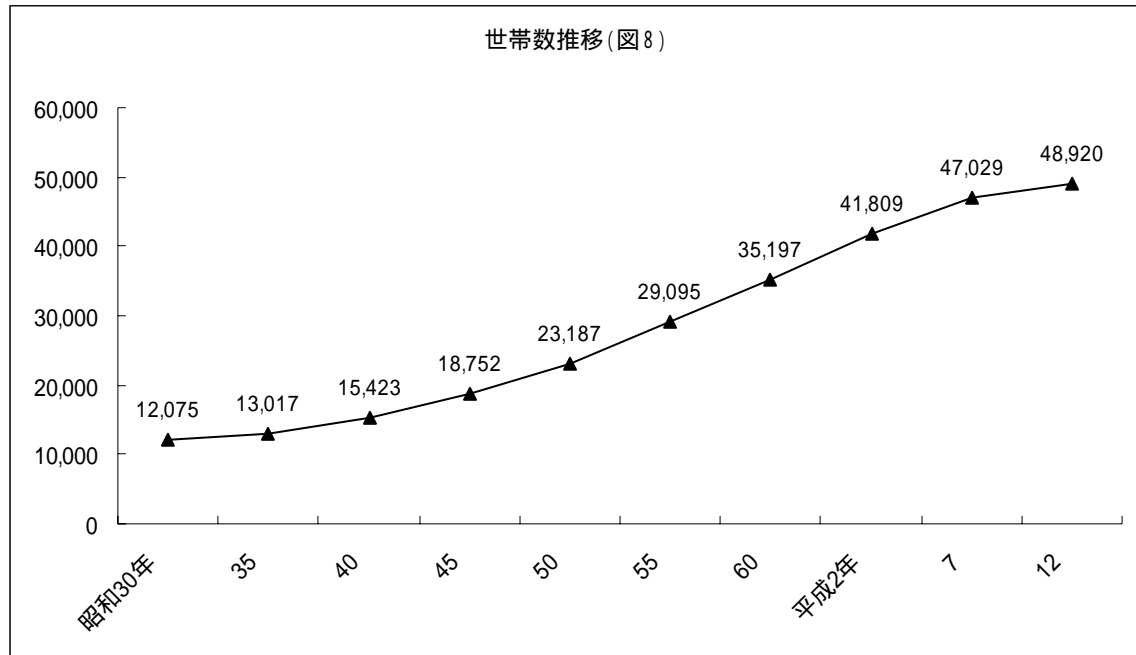
## 2. 家族や地域の状況

### (1) 世帯の状況

世帯数の推移をみると、核家族化の傾向から人口が横這いから減少しているにもかかわらず、平成7年の47,029世帯から平成12年の48,920世帯と増加しています。

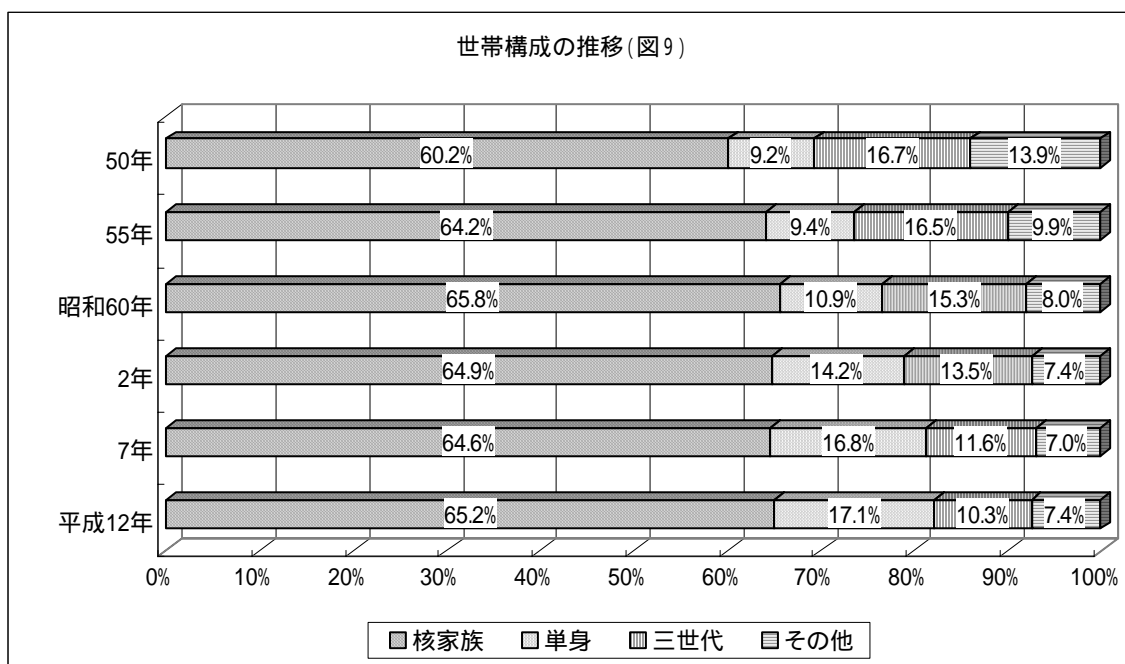
平均世帯人員は平成7年3.24人から平成12年3.09人と減少しています。

(図8)



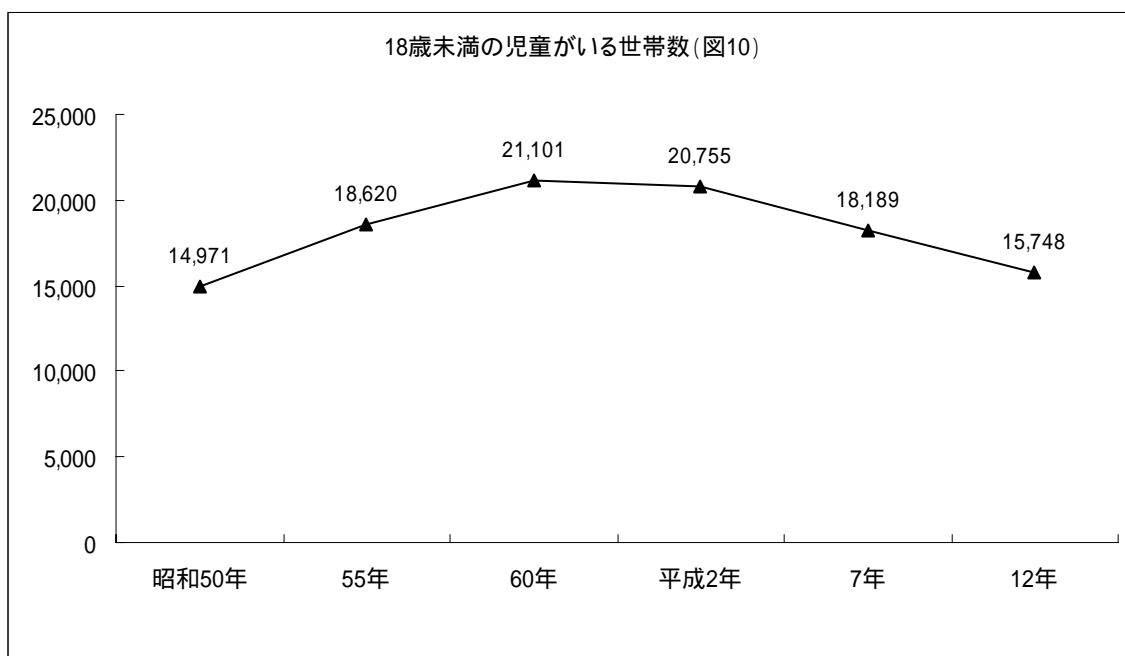
資料：国勢調査

また、世帯構成は3世代が平成7年11.6%から平成12年には10.3%まで減少する一方、核家族が平成7年64.6%から平成12年65.2%に、単身が平成7年16.8%から平成12年17.1%にそれぞれ増加しています。(図9)



資料：国勢調査

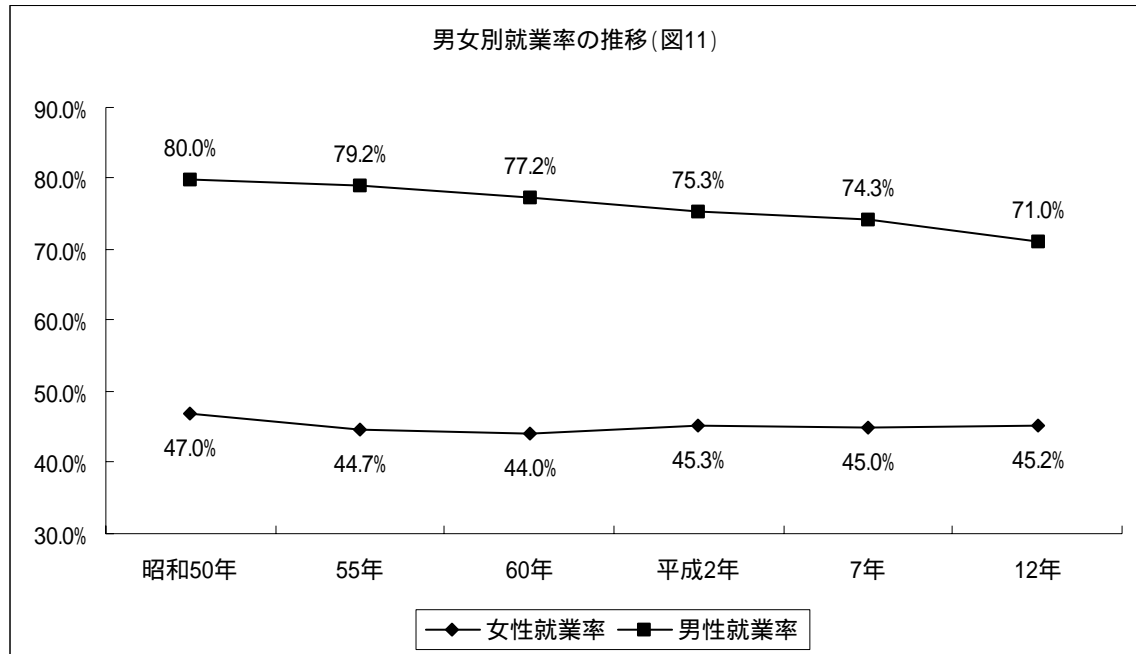
18歳未満の児童のいる世帯数については、昭和60年の21,101世帯をピークに年々減少し、平成12年には15,748世帯にまで減少しています。(図10)



資料：国勢調査

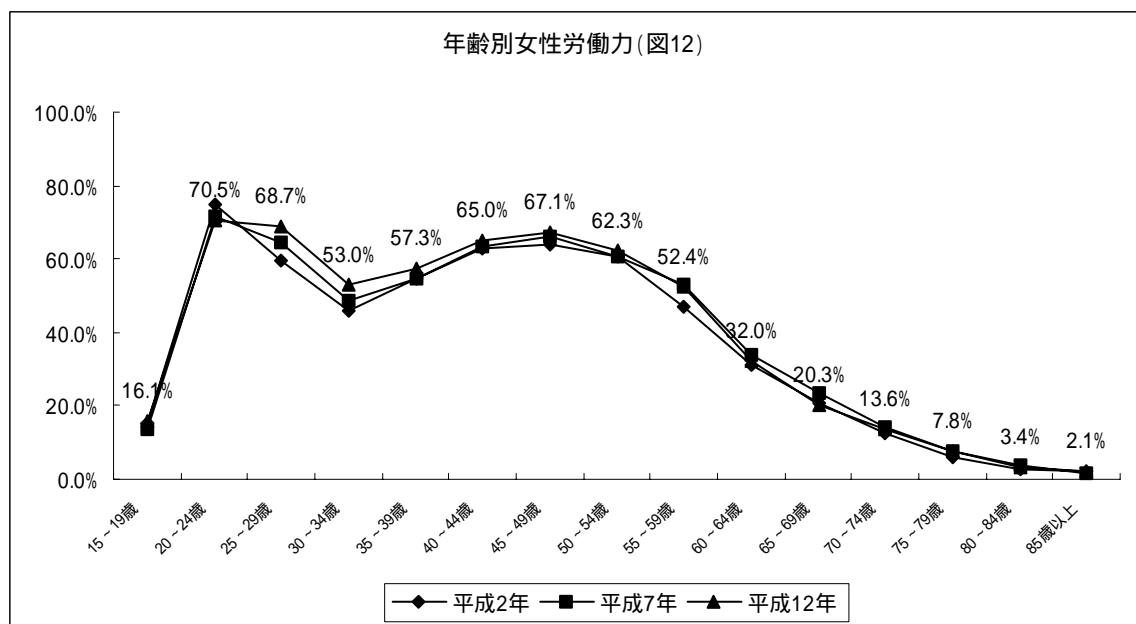
## (2) 就労状況

男女別就業率は男性が平成7年74.3%から平成12年71%と減少しており、女性が平成7年45%から平成12年45.2%と横這いからわずかに増加しています。(図11)



資料：国勢調査

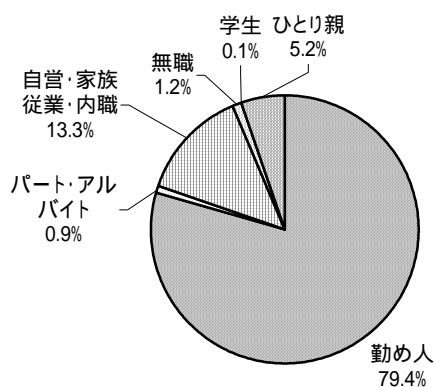
女性の年齢別労働力を平成12年で見ると、20～24歳が最も高く70.5%、30～34歳で一度53%まで低下し、再び45～49歳の67.1%まで上昇し以降緩やかに減少しています。(図12)平成2年からの推移を見ると、晩婚化や出産後も継続して働くケースが増えた影響から、M字曲線の谷の部分の部分が浅くなってきています。



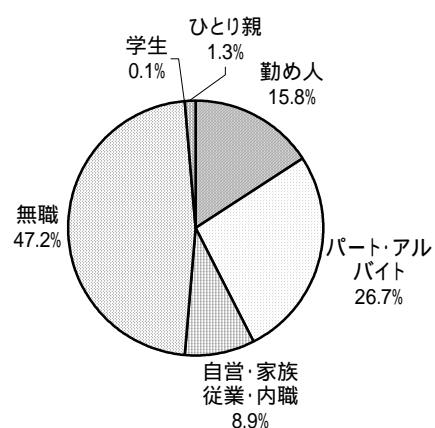
資料：国勢調査

平成 15 年 10 月に実施しました子育てに関する意向調査によると、就業形態では、父親で見ると、最も多いのがフルタイムの勤め人 79.4%で、次いで自営業が 13.3%。母親は最も多いのがパート・アルバイトの 26.7%、次にフルタイムの勤め人で 15.8%でした。(図 13・14) また、就業時間を見ると、父親は 9～12 時間が 42.5%、12～15 時間が 38.8%で、両者を合わせると 81.3%になります。母親は 6～9 時間が 35.9%と最も多く、次いで 9～12 時間の 27.9%、3～6 時間の 26.2%の順で、3 者の合計で 90%に達しています。(図 15・16)

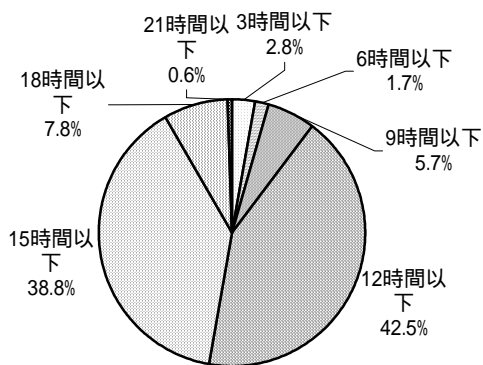
就労形態(父親)(図13)



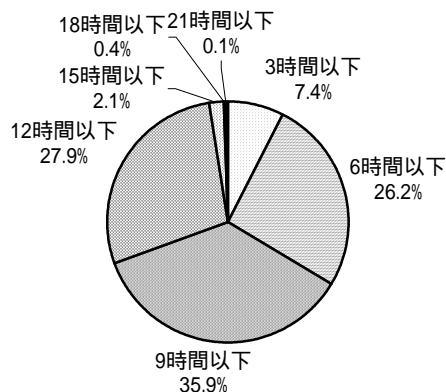
就労形態(母親)(図14)



就労時間(父親)(図15)



就労時間(母親)(図16)

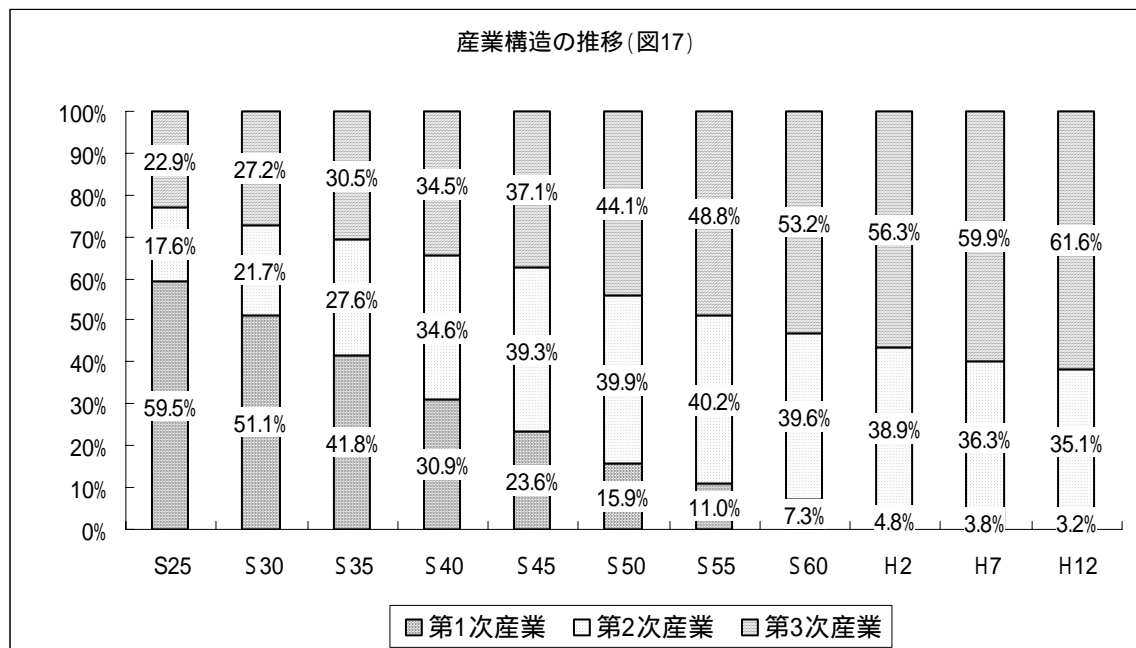


資料：子育て意向調査

### (3) 産業・雇用の状況

産業別就業者数を平成7年から12年の推移で見ると、第1次産業では3.8%から3.2%へ減少し、第2次産業も36.3%から35.1%へ減少した反面、第3次産業は59.9%から61.6%へ増加しました。

主要産業は古くから醤油醸造業に代表される製造業が多く、市制が施行された昭和25年には第1次産業59.5%、第2次産業17.6%、第3次産業22.9%であったが、昭和50年に第1次産業15.9%、第2次産業39.9%、第3次産業44.1%、平成12年に第1次産業3.2%、第2次産業35.1%、第3次産業61.6%と都心への通勤圏内であることからベッドタウン化が進み、第1次産業から第3次産業へとシフトしています。(図17)



資料：国勢調査

#### (4) 地域の特性

野田市は平成 15 年 6 月に関宿町と合併し新野田市としてスタートしました。

千葉県の北西部にあたる野田市は関東平野のほぼ中央に位置しており、市の東を利根川、西を江戸川、南を利根運河が流れる水と緑に恵まれた地域です。

当市域は古くからこの水の恵みを活用し、北部は大都市江戸への玄関口であり、重要な川の関所が設けられた関宿藩の城下として、南部は江戸っ子の食文化を支えた醤油醸造業を中心に、文化と歴史の豊かさを持ち合わせた形で、発展してきました。

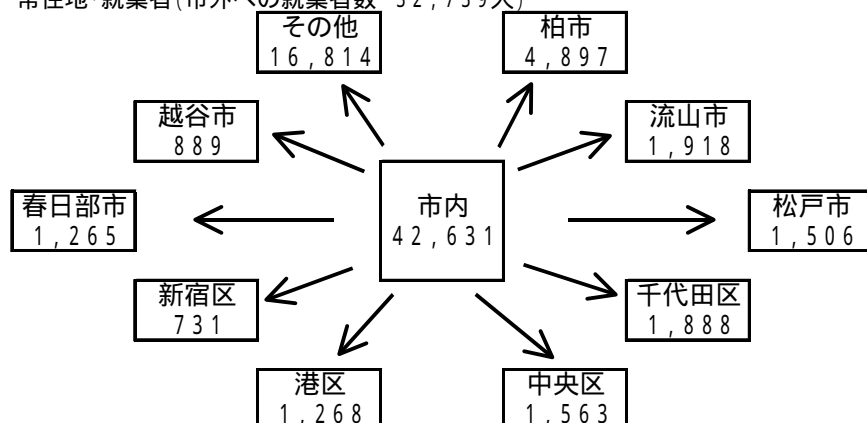
交通手段は 市南西部に東武鉄道が通っていますが、各駅までの路線バスが全ての地区を網羅しているとは言えず、路線バス未運行地区を中心に、平成 16 年 1 月から市内を循環するコミュニティバス（まめバス）が運行を開始し、手軽な交通手段として市民から好評を得ています。

また、都心への通勤圏であり、大規模な区画整理事業が完了し住宅の販売が開始されることから、減少していた人口が増加に転じることが予測されます。

さらに、東京直結鉄道（地下鉄 8 号線）の早期着工が実現されれば、さらなる人口増加の要因になると期待されています。

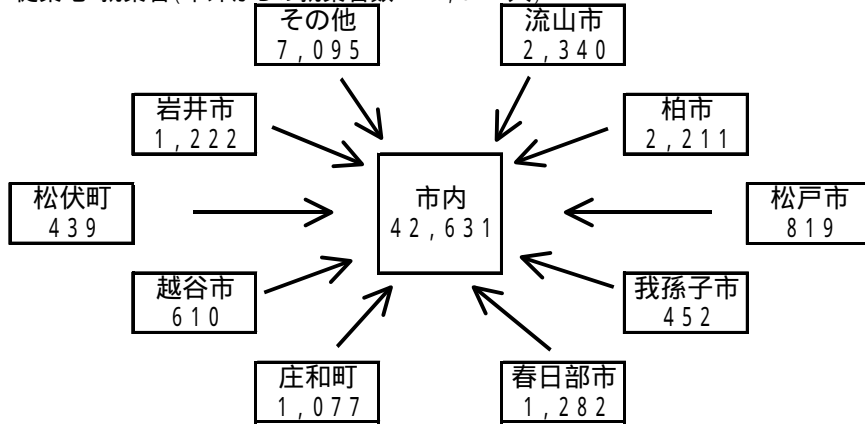
平成 12 年国勢調査では、昼間人口が 110,079 人、昼夜間人口比率をみると、91.9%で流出超過の状態であり、野田市へ通勤あるいは通学してくる人よりも野田市外に通勤あるいは通学している人が多いことが分かります。通勤先別では柏市が 15.0%と最も多く、次いで流山市が 5.9%、千代田区が 5.8%、中央区が 4.8%の順でした。（図 18）市内へ通勤は流山市からが 13.3%と最も多く、次いで柏市からが 12.6%、春日部市からが 7.3%、岩井市からが 7%の順でした。（図 19）通学先別では柏市が 15.6%と最も多く、次いで流山市が 10.6%、松戸市が 5.9%の順でした。（図 20）市内へ通学は流山市からが 22.6%と最も多く、次いで柏市からが 17.3%、松戸市からが 3.7%、岩井市からが 2.9%の順でした。（図 21）

(図18) 常住地・就業者(市外への就業者数 32,739人)

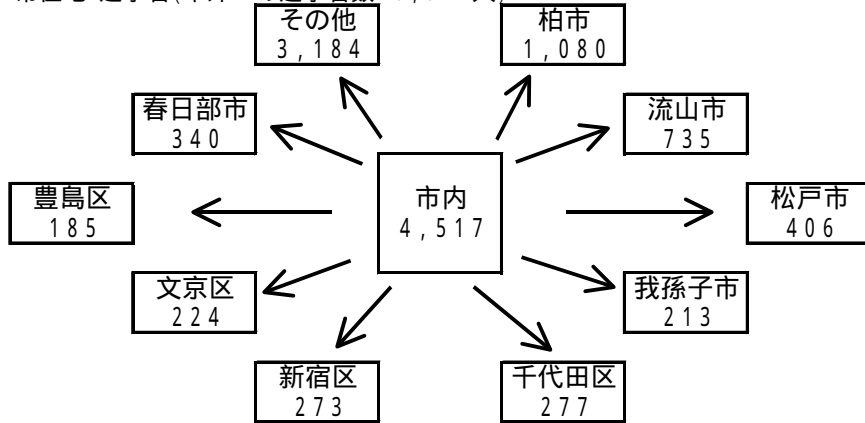


資料：国勢調査

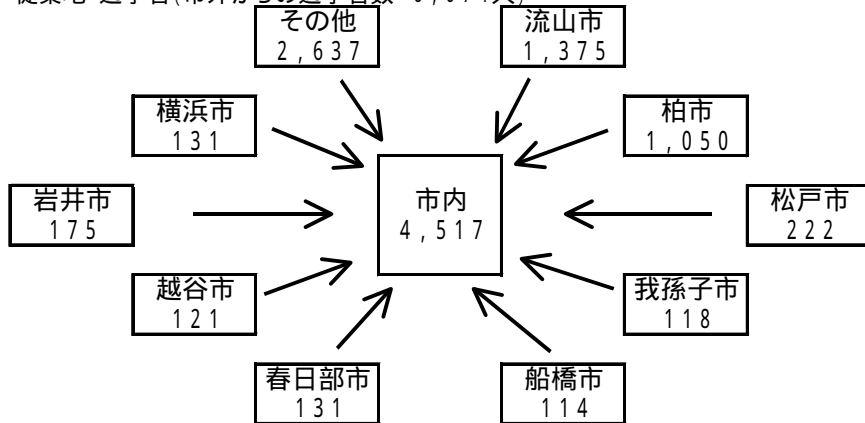
(図19) 従業地・就業者(市外からの就業者数 17,547人)



(図20) 常住地・通学者(市外への通学者数 6,917人)



(図21) 従業地・通学者(市外からの通学者数 6,074人)



資料：国勢調査